

# Smile

通信



埼玉県住まいづくり協議会

平成25年10月 編集・発行 / 埼玉県住まいづくり協議会

〒330-8516 さいたま市浦和区仲町3-12-10(埼玉県住宅供給公社内)

TEL 048-830-0033 ホームページアドレス <http://www.sahn.jp/>

武州中島紺屋



## contents

シリーズ埼玉の住まい	30	
藍のまち 羽生	.....	表紙、2・3頁
埼玉住み心地の良いまち大賞 入選作発表	.....	4・5頁
協議会活動	.....	6頁
省エネ技術講習会	.....	7頁
住生活月間シンポジウム	.....	8頁

vol. 53

# 藍のまち 羽生

埼玉県立近代美術館  
専門員 兼 学芸員

伊豆井 秀一



掘越家⑥



寺井力三郎家③

「四里の道は長かった。其間に青編の市の立つ羽生の町があった。」明治の自然主義文学、田山花袋の『田舎教師』の冒頭部分である。市の広報では「藍のまち・田舎教師のまち」という。

農家の副業として藍に染められた糸で織り上げられた反物は青縞と呼ばれ、足袋や野良着の素材として使用されてきた。明治期に百軒以上もあつた紺屋も現在では数軒を残すほど。まちなかには衣料の工場や綿糸を保存していた蔵も点在している。

駅前通り、人の流れは少ない。通りに面したさかい屋①。群馬から出てきた先々代の大正三（一九一四）年築。木造二階。店の奥に廊下が周囲を回り和室二部屋、二階も和室二部屋。見上げる店の重厚な梁、二階の千本格子がよい。さかい屋の下見板の壁の続く脇を通り抜けると料亭松葉②。木造二階建て。庭をはさみL字形に木造二階の建物が続く。明治四十（一九〇七）年頃の店舗を昭和二（一九二七）年頃に増築したものという。現在使われることの少ない五十畳大の二階。さらに廊下を挟み、その隣の和室には華やかな建具が設えてある。

このあたり、なつかしい路地が広がる。

市の観光用パンフレットに田舎教師のモデル小林秀三が下宿していた場所として「寺井家」という表示がある。ほぼ同じ位置に画家の寺井力三郎家③。小林秀三が下宿していたのは裏の寺井家の本家で、建て替えて昔の面影はない。こちらは木の扉に取り囲まれ風情のある趣。玄関には石井柏亭、小

絲源太郎の小品が両側に。式台風のスペースは作品の展示スペースとして改修。通された和室、それにつづく仏間、付け書院の建具も美しい黒柿の床の間。緑の庭を南側に廊下づたいに絵を描いていたという蔵へと続く。明治期のものに昭和四（一九二九）年に増築したという。独特の静けさが漂う寺井作品の生まれる場である。

市内から少し離れた小松地区。武州中島紺屋（表紙）。天保二（一八三七）年創業、当代は四代目。塀に囲まれた敷地内には展示場としての史料館、作業所等、多くの建物が建ち並ぶ。販売所の土蔵は江戸期の二階建て。それに塀をはさみ、吉野川から運ばれた石で枯山水の中庭。その庭を前に木造二階四部屋のはなれ。地元の大工の手になり、明治四三（一九一〇）年築。県指定無形文化財技術保持者四代目鶴吉（中島安夫氏）は藍染め技術の普及に毎年カリフォルニア大学に講習に出かける。藍の研究を深めその源を世界に訪ね、エジプトのツタンカーメン王の着衣の藍染めに携わった経緯から、このたびスウェーデン大使館との共催により敷地内の史料館で「ツタンカーメンの衣装展」（二〇一三年十月二日〜十二月二十五日）を開催する。民間レベルで行う画期的な展覧会である。藍を羽生にとどまらぬ世界へ発信し続ける貴重な場なのである。

その裏。「鍾道大尽」と呼ばれている荒木家④。明治九（一八七六）年築の母家は地元の大工に拠るといふ。木造二階建て。改修されているものの、南に面した二部屋続く和室の帯戸は重厚。また部

屋をめぐる鴨居の太さにも驚く。その昔疫病流行の際、持仏の鍾馭様の御利益で難を免れたという。それを証するように母屋に並ぶ蔵の二階には土蔵の鍾馭の鏝絵が。五つの屋根の載る豪壮な特異な門は江戸期のものという。

新郷駅近く、万延元（一八六〇）年創業の**南陽酒造**の近く**かねと衣料**⑤。足袋の製造で文政年間創業。手入れの行き届いた中庭の奥に立つ木造二階の瀟洒な建物は、失火後の昭和十四（一九三九）年の築という。

市内の北部、川俣。北へ向かう道路沿いにこんもりとした森。**掘越家**⑥。県内最初の政治結社を結成した掘越寛介の家である。宮大工十代目三村善兵衛（政好）の手で大正七（一九一八）年築。むくり屋根の玄関に入り見上げると格天井。応接間は舟底天井で竿縁はなぐり。廊下づたいに回ると扉に囲まれた中庭に面し八畳、床の間



さかい屋①

付きの十畳の和室が広がる。平屋だが天井が高く夏でも涼しいと奥様は仰る。応接室に隣接する格子の見事な建具に囲まれた和室はキユツと音のする鶯張り。皇居の呉竹庵を模したという由縁も理解される。外観だけではなく内部の華麗さも際立つ。

昭和大橋の手前、桑崎の交差点に差し掛かると右側にこんもりとした森に敷地は三千坪という二重の門構えの家が見えてくる。**興武館**⑦。小野派一刀流の看板のある表門を抜けると武術師範小沢愛次



料亭松楽②



荒木家④

郎の石碑が右手に。さらに進むと中門。庭を挟んで右側奥に武道場。左手に母屋。明治十七（一八八四）年の図面があり、この中門もおそらくそのころ。剣道の啓蒙普及のため、小沢愛次郎は明治二十一（一八八八）年こちらに興武館を開いている。

中手子林の**木暮家**⑧。格式ある門を抜けると大きな突起状の屋根部分が眼を惹く。木造二階の明治期の母屋。土間から見上げると茅葺の屋根裏側が。名主も務めた名家である。

市内から少し離れたところにある藍に関連した建物を紹介しておきたい。ひとつは赤いのが美しい**野川染色工業**⑨。もうひとつは**小島染色工業**。高い煙突にのこぎり屋根が眼を惹く。羽生は衣料のまち、藍のまち、帰りの車の中でそう独り言ちていた。



かねと衣料⑤

**伊豆井秀一**（いずいひでかず）昭和二十四年生まれ。埼玉県立博物館、埼玉県立近代美術館、埼玉県教育庁生涯学習課を経て、現在埼玉県立近代美術館専門員兼学芸員。専門は日本近・現代美術。著書に『昭和の美術』（共著 毎日新聞社）、『小茂田青樹画集』（共著 日本経済新聞社）など。



興武館⑦



木暮家⑧



野川染色工業⑨

# 県知事賞に小川将喜さん

埼玉住み心地の 第9回  
**良いまち大賞**

## 「とってもアートな『武蔵浦和駅』周辺」



埼玉県知事賞 小川将喜さん  
「とってもアートな『武蔵浦和駅』周辺」



作品に見入る審査委員長

審査風景

第9回埼玉住み心地の良いまち大賞の審査委員会が9月24日、さいたま市浦和区で実施されました。

今年は、過去最多の1374点の応募があり、この多くの応募作品の中から、埼玉県知事賞、埼玉県教育委員会教育長賞、埼玉県住まいづくり協議会会長賞、審査委員長賞の特別賞を各1点、協賛企業賞を25点、優秀賞を40点、合計69点の作品が選出されました。

表彰式は、10月12日にさいたま市浦和区のさいたま共済会館で開催されます。

また、10月18日には、浦和コソソ7階ホールで開催される「住生活月間シンポジウム」の会場で、受賞作品が展示されます。(入場無料)



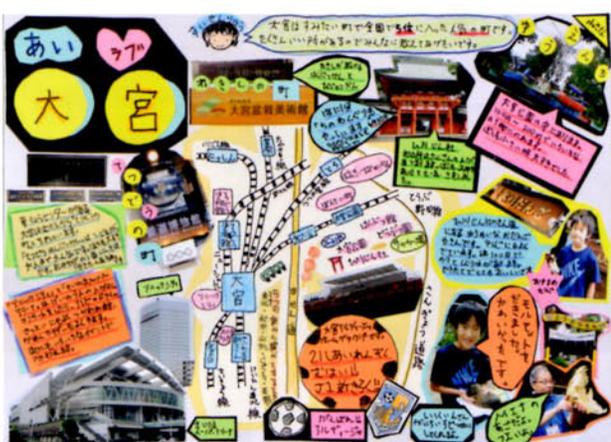
埼玉県教育委員会教育長賞

晴山 皓介さん 「富士見から見える富士山」



大竹 康平さん 「鴨川の散歩道」

審査委員長賞



瀬戸口 春樹さん 「あいラブ 大宮」

埼玉県住まいづくり協議会会長賞

### 審査委員長講評

今年には日本にとって喜ばしいニュースがありました。富士山が世界遺産登録され、また2020年の夏季オリンピックが東京で開催されることになりました。

応募作品の中にも富士山やオリンピックなどを取り上げ、話題になっていることがうまく表現されている印象を受けました。時節にあっているものを見ることは、まちが好きになることにつながります。そして、そのまちの特徴や魅力を知り、それを活かすまちづくりを進めていくことが大事なことで私は思います。

「第9回埼玉住み心地の良いまち大賞」には、過去最多となる1374点のご応募をいただきました。その中で、埼玉県知事賞に選ばれたのは、小川将喜さん(中学1年生)の「とってもアートな『武蔵浦和駅』周辺」です。また、埼玉県教育委員会教育長賞に、晴山皓介さん(小学6年生)の「富士見から見える富士山」、協議会会長賞に、瀬戸口春樹さん(小学3年生)の「あいラブ 大宮」、そして、審査委員長賞には、大竹康平さん(中学1年)の「鴨川の散歩道」が選ばれました。

埼玉県知事賞に選ばれた小川さんの作品は、武蔵浦和駅周辺の街の中のアートの着目しています。街が取り組んでいるネタがうまく取り入れられていると思います。普段歩きなれている道も視点を変えてみると、また違った魅力が発見できるということが表現されているように感じます。探して歩いてみたくなる作品です。

小川さんの作品のみならず、入選した全ての作品には、まちの魅力をjつけるためのヒントが描かれています。皆さんも作者の発見したまちの魅力をも、その目で確かめてみてください。もしかすると、作者も気が付かなかった新たなまちの魅力が発見できるかもしれません。

埼玉住み心地の良いまち大賞は、平成17年の第1回目から今年の第9回目までに、5645点のご応募をいただきました。これは、埼玉が魅力溢れるところであることを示すものです。そして、なにより、作者が発見した「良いまち」を私たちに届けてくださる小学校、中学校の先生や親御様、協賛企業の皆様のご支援・ご協力があったからこそです。関係者の皆様には、深く感謝を申し上げますとともに、これからも、埼玉県住まいづくり協議会の活動へのご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成25年10月

小川 秀樹  
(埼玉新聞社代表取締役)

# 風間新会長のもとで 平成25年度 第1回理事懇談会

去る8月24日午後5時、さいたま新都心にて、風間会長、武井運営委員長の新体制のもと、15名の理事・正副委員長が出席して、埼玉県住まいづくり協議会平成25年度第1回理事懇談会が、開催されました。

各理事からは、本協議会活動の中心を担っている「木造住宅生産体制強化推進委員会」、「埼玉住み心地の良いまち推進委員会」、「住宅リフォーム推進委員会」、「マンションリフォーム委員会」、「サステイナブル研究委員会」などの委員会活動につき、会員企業・団体ばかりでなく、会員以外の住宅産業関係者や一般県民の生活との関係を深めていける点について、さらに関係性を充実させていきたいとの発言がありました。

また、様々な委員会活動を通じて、住宅業界の一員として行政情報や他社の取り組みについて幅広い情報や知識を得ることができるだけでなく、「地域型住宅ブランド化事業」のような国庫補助金事業の採択など、会員企業への具体的なサポートが出来たことも取り上げられました。

さらに協議会活動全体については、以下の具体的で力強い提案があり、参加者全員が本協議会の更なる発展を祈念して、第1回懇談会を終了しました。

・当面の目標として会員企業・団体を

現在の130社から200社へと増強を図る。  
・委員会活動への女性の参加を促進する。  
・本協議会活動の参加企業や、特に協議会活動に貢献した個人にスポットを当てて、ホームページや機関誌などで紹介する。



## コバトンの家 「地域型住宅 ブランド化事業」 に採択される

埼玉県住まいづくり協議会は、国土交通省が行う「平成25年度地域型住宅ブランド化事業」に応募し、8月6日に採択されました。

この事業は、地域における木造住宅生産と維持管理体制の強化、地域資源を活用した「地域型住宅」の供給を支援することを目的に平成24年に新設された制度で、今回は3回目の募集となります。採択されたグループには1戸当たり最大100万円の補助金が支給され、当協議会が提案した「コバトンの家」は2年連続採択された事となります。

当協議会では今年度新たに「新築地域型住宅ブランド化委員会」を設立し、委員長に株式会社OKUTA 酒井裕三氏を選任。補助事業だけに留まらず生活者の方々から最も信頼のおける優良な設計指針となるよう、普及促進に向け継続して活動して行きたいと考えています。

## 埼玉県環境住宅賞 募集中

埼玉県住まいづくり協議会では、今年度新たに「埼玉県環境住宅賞」を開始し、現在、会員をはじめとする建築事業者から一般の方まで広く作品を募集しています。

## そらどまの家

いま、地球温暖化防止など、環境への負荷の少ない住まいづくり・住まい方が求められています。  
そこで、こうした住まいづくり・住まい方を進めるため、工夫やアイデアに富んだ住宅・住まい手を募集するものです。  
賞は、住宅関連事業者向けの「**建築部門**」、「**リフォーム部門**」、一般向けの「**住まい手部門**」事業者も一般の方も対象とする「**アイデア部門**」があります。  
募集は10月31日までです。詳しくは、協議会ホームページをご覧ください。

去る9月3日、埼玉県住まいづくり協議会サステイナブル委員会では、さいたま市において建築家丸谷博男氏による「そらどまの家」と題した講演会を開催しました。  
「そらどまの家」とは省エネばかりでなく、人間にも建築にも健康な家を実現しようとするもので、日本の伝統建築の、天井裏「そら」と土間「どま」の間の空気対流、土壁等の自然素材による通気・透湿を利用した、パッシブソーラーシステムを、現代の住宅建築の中に取り入れたものです。  
特注の機器や特別の制御を使うことなくシステム構成をしているので、より安価で、より普及しやすいエコハウスとして実現することができたそうです。  
講演会には事前登録を超える多くの方に参加していただき、盛況のうちに終了しました。

# 低炭素社会に向け 環境にやさしく 快適な 省エネ住宅をつくろう

木造住宅の省エネ基準が義務化されます。  
大工さんは断熱施工技術講習会を受講しましょう。  
今年度より設計者に対する講習会も行なわれます。

埼玉県住まいづくり協議会  
木造住宅生産体制強化推進委員会

## ◆施行技術者向けカリキュラム

9:30~ 9:40	10分	開会、趣旨説明等
9:40~11:15 (休憩15分含む)	95分	1章(これからの住まい) 2章(住宅の断熱設計) 5章(住まい手にむけて) 別冊「省エネ基準と関連制度の解説」
11:15~12:00	45分	断熱施行 DVD放映
12:00~13:00	60分	=昼休み=
13:00~14:00	60分	3章(充填断熱施工)
14:00~15:00	60分	4章(住宅の断熱リフォーム)
15:00~15:15	15分	=休憩=
15:15~16:00	45分	模型解説
15:40~16:10	30分	修了考査問題配布、説明
16:10~16:40	30分	修了考査
16:40~16:55	15分	考査問題解説
16:55~17:00	5分	アンケート記入、閉会

◆配布資料 ・住宅省エネルギー技術者講習テキスト及び  
別冊「省エネ基準と関連制度の解説」  
・住宅断熱施工DVD ほか

現在建てられている新築戸建て住宅のうち、5〜6割が住宅省エネ基準を満たしていますが、戸建住宅の約4割を供給する中小の大工・工務店では2〜3割に過ぎず、省エネ技術が十分に浸透していません。  
そこで、新築住宅における省エネ基準適合率を平成32年度までに段階的に義務化することを目標に、地域の木造住宅生産を担う大工技術者などを対象に住宅省エネルギー施工技術講習会を各都道府県単位で行い、最終的に20万人の大工技術者、現場技術者、設計者への省エネ技術講習を実施します。  
2年目となる本年は埼玉県では1800人の受講を目標としています。  
つきましては埼玉県住まいづくり協議会では次のとおり省エネ施工技術者講習会を開催いたします。  
この講習会は、大工技術者・設計者にとつて今後必要不可欠の技術であると考えていますので、是非とも受講くださるようお願いいたします。

- ◆施工技術者向け  
大工技術者以外の方も受講可能です
- ① 10月22日(火)、26日(土)、28日(月)  
会場 建設埼玉会館  
住所 さいたま市北区宮原町4-144-1
- ② 10月21日(月)、24日(木)、29日(火)、11月12日(火)、13日(水)、17日(日)、18日(月)、19日(火)  
会場 埼玉県県民活動総合センター  
住所 伊奈町内宿台6-26
- ③ 12月9日(月)、10日(火)、11日(水)、14日(土)  
会場 大和屋物流センター  
住所 熊谷市問屋町4-1-7
- ◆設計者向け
- ① 12月2日(月)、3日(火)、4日(水)、1月19日(日)、22日(水)、23日(木)、24日(金)、2月3日(月)、4日(火)、

◆問合せ先  
埼玉県住まいづくり協議会事務局  
電話 048-830-0033  
FAX 048-830-0034

※開催日程や会場は変更になる場合があります。  
※詳細、お申し込みについては、専用のホームページにてご確認ください。  
住宅施工技術講習会ホームページ  
<http://www.shoene.org/>

※各回ごとの定員は50名程度で、定員となり次第締め切りとなります。  
※各回とも一日コースで同様の内容です。  
※この講習会は建築士会及び建築事務所協会CPD認定研修です。

5日(水)、6日(木)、18日(火)  
会場 埼玉建産連会館  
住所 さいたま市南区鹿手袋4-1-7

※受講料、修了証発行手数料が、合計で20000円かかります。  
※開催日程や会場は変更になる場合があります。



- 「第9回埼玉住み心地の良いまち大賞」入選作品展
- リフォームやエコに関する実例集

# 見つめ直そう、 近所の力を



平成25年 **10月18日(金)**

**12:30~15:30** (開場12:00)

## コルソホール

浦和コルソ7F (JR浦和駅西口正面)

コルソホールは地下に駐車場がありますが有料です。  
ご利用の方は各自でご負担ください。



地域コミュニティを考える

フリーキャスター  
堀尾 正明氏



健康と住まいを考える

健康で快適な環境づくりのバイオニア  
東京都市大学教授

坊垣 和明氏

【お問い合わせ・申込先】事務局（埼玉県住宅供給公社内）TEL 048-830-0033

※受付時間：9:00~12:00、13:00~17:00（月~金）

後援／埼玉県、国土交通省、住宅金融支援機構首都圏支店、都市再生機構埼玉地域支社

主催：  埼玉県住まいづくり協議会

入場  
無料